

んぽん舗

ポツ



223号

2022年3月

[発行元]

石巻市NPO支援オフィス
〒986-0832 宮城県石巻市泉町3丁目1-63
TEL・FAX 0225-23-3641
MAIL : centerishinomaki@gmail.com
http://ishinomakinposhienoffice.jimdo.com/
開館時間：月～金 10:00～20:00
土曜日 10:00～18:00
休館日 日曜・祝日・第四木曜日

毎月25日発行

NPOや市民活動に
役立つ情報をお
届けします。
みなさまからの
情報提供もお待ち
しております。



ピックアップんぽ

登録番号 140 一般社団法人日本カーシェアリング協会
代表理事: 吉澤武彦さん

日本カーシェアリング協会・吉澤さんには、んぽん舗166号(2017年6月)に初めて取材させていただきました。東日本大震災が発生した2011年の7月に協会を設立。11年目を迎える今年、改めて話を伺いました。



○吉澤さんは2011年6月に初めて石巻に入り車の提供先を探し始めました。震災から11年が経過しようとしています。今の石巻は吉澤さんの目にどのように映っていますか？

石巻は建物も建ち、道路もきれいになり、被災者は復興住宅に入りました。“災害後”に着目すると、ある程度復興していくフェーズは進んでいると思います。もちろん、癒すことのできないところは残っているとも思います。(続く…)

(最後の質問にも関連する回答をいただいたので、そこにまとめます)



吉澤さん 事務所前にて→

○「コミュニティー・カーシェアリング」は一般的なカーシェアリングと違うのですか？

まず、目的が違います。コミュニティー・カーシェアリングは地域の人たちがルールを決め、役割を分担してもらい運営します。経費実費を使った割合に応じて分担するしくみです。そうすることでなによりも地域が元気になります。この活動は石巻市内の現在11地域で実践されていて、地域同士の結びつきにも一役買っています。

石巻市には、この取組に関心のある地域が日本カーシェアリング協会の支援を受けてチャレンジできる制度があるので、ぜひチャレンジしていただき地域の助け合いを活性化して欲しいです。

○全体的な利用者さんの高齢化も進んでいると思いますが、ドライバーの確保等の課題にはどのように取り組んでいますか？

最近ドライバー不足を地域同士の連携で補い合うことが行われています。例えば旅行に行く時に、ドライバーが複数人必要な場合などは、実践している他の地域グループからヘルプドライバーとして協力してもらうといったような地域同士の連携です。

○活動開始から時間を経て今思うこと。この先に描く社会活動はどういったものですか。

これからは、たくさんの支援を受けてできたこの石巻発の仕組みを通して他の地域へ還元していきたいと思っています。

今、様々な地域から石巻のコミュニティ・カーシェアリングの視察に来ていただいています。そして、それをきっかけにそれぞれの地域でコミュニティ・カーシェアリングが実践されるようになりました。その数は、ここ3年くらいで石巻を超えてしまいました。(13地域) おそらくコロナが落ち着くとこのペースは加速し、2025年くらいには100地域位になるのではと想定しています。

石巻の方々実践してきた助け合いが様々な地域に広がり、自分たちが様々な地域へ貢献できたことを皆さんが自覚した時、そこに誇りが生まれると思います。そういう心の中にこそ復興と呼ばれるものが存在するようには私は思っています。



事務所入口



駐車場には寄付車

日本カーシェアリング協会は2022年に入り、石巻商工会議所が主催する「いしのまき大賞」を受賞いたしました。また、合わせて自動車メーカーや業界団体などが加盟する日本自動車会議所が設けた「クルマ・社会・パートナーシップ大賞」で、部門賞「自動車ユーザー連携賞」に選ばれました。受賞を受け吉澤さんは、『地元の皆様から評価されたことがなによりも嬉しい。また、自動車業界からは“連携”を評価していただいたことに非常に喜びを感じます。一人一人と連携してきたその方たちといっしょに受賞できました』とおっしゃっていました。



○吉澤さんから日頃の感謝の気持ちを込めてこれまでの10年いろんな人に支えられて何とかやってこれました。たくさんの方々に支えられて今があります。この支援は一時のものではなく、他の地域に、そして全国に活用されるようになります。他の地域で私たちの車を見かけた石巻の方が「石巻で生まれた支援なんだよ」と誇らしく語っていただけのものになれば嬉しいです。

(裏面へ続く)



日本カーシェアリング協会のマスコットキャラクター
みなさんご存知ですか？

シェアパカ-1号 ストーン(左)
シェアパカ-2号 ローリー(右)

「ストーン(石)」と「ローリー(巻)」合わせて「石巻」なんです。

ストーンとローリーの鼻は海の町石巻をイメージした錨の形に。
足は車のタイヤになっています。

寄付車でつくる 支え合いの仕組みを 石巻から全国へ
○一般社団法人日本カーシェアリング協会
住所:石巻市駅前北通り1丁目5-23
電話:0225-22-1453
詳細はホームページをご覧ください。



取材報告

東日本大震災追悼 3.11のつどい

東日本大震災から11年。今年も「がんばろう！石巻」看板付近(南浜町3丁目)を会場として、追悼式が行われました。この追悼行事は震災翌年の3月11日から門脇・南浜地域において市民による手作りの形で開催が継続されています。当日は朝から暖かく、穏やかな空気を感じられる日となり、早々に献花に訪れる人が多く見られました。



「3.11追悼」の文字が浮かびあがる。
実行委員会・ボランティアにより、灯籠が並べられている様子

主催者の東日本大震災追悼3.11のつどい実行委員会・がんばろう！石巻の会は、事前に灯籠へのメッセージを集め、灯籠づくりのワークショップを開催する他、県内外各所、市民ボランティアにもご協力いただきながら準備をすすめてきました。14時過ぎから始まった追悼式では、放課後子どもクラブBremenに通う子ども達の手紙の朗読があり、黙祷、祈りのうたの後は、鳩バルーンのリリースがありました。それはまるで本物の鳩が空に飛び立っていくかのような様子でした。



30羽の鳩型バルーンが子供たちに
よって放たれた



メッセージの書いてある灯籠もあり、
心を打ちます

これまで続けてきた追悼行事について、
実行委員長で「がんばろう！石巻の会」事務局長の黒澤健一さんにお話を伺いました。

●震災から11年が経過しました。看板の周りの景色の変化や、
ここを訪れる人々の変化など何か感じるものはありますか。

黒澤:「震災から11年が経ち、やっとここに来ることができたというご遺族の方もいますし、
まだ来れない方もいます。そして震災を忘れないという思いで全国各地から集まってくださいます。
石巻南浜津波復興祈念公園も完成して、今までは震災を学びに来る方が多かったのですが、今は公園で家族連れで
犬の散歩をしたり、石巻の慰霊碑に祈りを捧げに来たり、多種多様な方が集う公園になってきたと思います。」

●この南浜津波復興祈念公園が市民にとってどのような場所になればいいと思いますか。

黒澤:「震災伝承の公園というのがいちばんですが、それと同時に震災で多くの方が亡くなった南浜、門脇だからこそ
美しい公園になってほしいですし、日常的に人が集える明るい場所になってほしいと思います。」



石巻市NPO支援オフィス

電話・FAX:0225-23-3641

メール:centerishinomaki@gmail.com



ホームページ



いしのまき
NPOセンター
YouTubeチャンネル